

コミュニティ・スクール太宰府小学校 令和7年度 指導の重点

令和7年度の重点目標

主体的な学びをとおして高める子どもの自己肯定感

重点目標の浸透を図るため、「太宰府小学校の合言葉」で児童への浸透を図ります。

<太宰府小学校の合言葉>

- | | |
|---------|-------------------------------|
| ①進んで学習 | 学習は、自分を成長させるため、パワーアップするために行う。 |
| ②ゆっくり成長 | 成長の仕方は人それぞれ。自分のペースで成長すればよい。 |
| ③自信をもって | 自分に自信をもって学校生活を送ろう。 |

<指導の重点>

- 1 子どもたちが主体的に学習に取り組むよう授業を工夫します。
- 2 プラムタイムやランチタイム学習、復習タイム等で、基礎・基本の定着を図ります。
- 3 地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域と学ぶ教育活動を進めます。
- 4 子どもたちがたくさんの本を読むよう支援します。
- 5 安全・安心な学校生活を送ることができるよう、子どもたちの居場所づくりに努めます。
- 6 子どもたちの家庭学習が充実するよう取り組みます。

1 子どもたちが主体的に学習に取り組むよう授業を工夫します

- ア 子どもたちの興味・関心を高め、学習内容や活動の見通しをもたせることで、子どもたちが自分で「学習のめあて」を設定できるようにします。
- イ 学級全体に共通する「学習のまとめ」を写すのではなく、子どもたちが自分の「めあて」に基づき、自分の言葉で「ふり返り」を書いて学習をまとめます。
ふり返る観点 ①わかったこと、②今日の MVP、③自分の変化、④次に学習したいこと
- ウ 子どもたちが協働的に問題を解決できるよう交流活動を工夫します。

2 プラムタイムやランチタイム学習、復習タイム等で、基礎・基本の定着を図ります

- ア プラムタイムで学びの基盤づくりを進めます。
 - ・ AI ドリル、計算や視写、発声練習
- イ 給食の準備時間を活用した算数の補充学習（ランチタイム学習）で算数の基礎・基本の定着を図ります。
- ウ 地域の丸付けボランティアの力を借りることで、算数の復習を効率的・効果的に行います。

3 地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域と学ぶ教育活動を進めます

ア ゲストティーチャーを積極的に招聘し、学習の充実を図ります。

- ・専門性をもったゲストティーチャー
- ・丸付け先生等の学習ボランティア

イ 生活科や社会科、総合的な学習の時間等において「地域」を教材化した学習を推進します。

- ・梅ジュースづくり（1年生 生活科）
- ・梅が枝餅づくり体験、子ども鬼すべ体験（2年生 生活科）
- ・「鶯替えについて調べよう」（3年生 総合的な学習の時間）
- ・「ふるさと発見太宰府」※菅原道真公等を調べる（4年生 総合的な学習の時間）
- ・「自然発見！太宰府」（5年生 総合的な学習の時間）
- ・「伝えよう 魅力のまち『太宰府』」※地域の歴史等を調査する（6年生 総合的な学習の時間）

ウ 通学合宿や夏祭り、公民館での勉強会等、地域の行事への積極的参加を促します。

4 子どもたちがたくさんの本を読むよう支援します

ア 目標冊数を決め、全校児童で多読に取り組みます。

- ・低学年-100冊 中学年-90冊 高学年-70冊

イ 市民図書館と連携して、読み聞かせを行います。

ウ 読書環境の整備に努めます。

- ・市民図書館から廃棄本を譲り受け、教室に配本
- ・市民図書館の貸し出しカードづくりの推進と「すくすく号」の利用促進

5 安全・安心な学校生活を送ることができるよう、子どもたちの居場所づくりに努めます

ア いじめを許さない、見逃さない風土づくりに努めるとともに、いじめに対して組織的に対応して解決を図ります。

- ・管理職及び学年主任への「報告・連絡・相談」の徹底
- ・組織的な対応方針の確認と役割分担

イ 気持ちの良い挨拶ができるよう様々な取組を行い、子どもの人間関係を広げていきます。

ウ 「福岡アクション3」（欠席者へのアクション）の徹底を図ります。

エ 「不登校未然防止診断」を活用した子どもたちの状況把握を行い、必要な支援を講じます。

オ 不登校コアチーム（校長、教頭、特別支援教育 Co、養護教諭、ST等）によるスクリーニング会議を定期的で開催し、ケース会議や児童への支援等へつなぎます。

カ 連絡会で気になる児童に関する情報の共有化を図り、全教職員で同じ方向性をもった対応ができるようにします。

6 子どもたちの家庭学習時間が充実するよう取り組みます。

ア 「家庭学習の進め方」を配布し、家庭学習に対する意欲を高めます。

イ 中学校ブロックで「家庭学習強化週間」を年2回設定し、保護者と協力しながら家庭学習の充実を図ります。

ウ 長期休業期間を中心に、家庭学習におけるAIドリルの活用を推進します。